

社会福祉法人 優心会
小規模多機能型居宅介護事業所かのん サービス評価
【平成28年度】

◆自己評価

事業所自己評価・・・・・・・・・・・・・・・・（事-①～⑨）

◆小規模多機能型居宅介護「サービス評価」総括表

事業所自己評価・ミーティング様式

実施日 平成 29 年 1 月 11 日 (16 : 00 ~ 17 : 30)

1. 初期支援 (はじめのかかわり)

メンバー 増淵、福田、下村、手塚、大貫、野崎、辻、神山
湯澤、鈴木

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	前回の課題について取り組めましたか?	人	3 人	3 人	2 人	8 人

前回の改善計画
○利用受け入れ時には、ミーティングを細目に行い情報を共有していく。

前回の改善計画に対する取組み結果
○朝のミーティングで随時情報交換を行うことができた。また、申し送り帳などを活用して本人の詳細な様子をまだ関わっていない職員に引継ぎスムーズに支援に入れるよう配慮できた。

◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	本人の情報やニーズについて、利用開始前にミーティング等を通じて共有していますか?		3	3	2	8
②	サービス利用時に、本人や家族・介護者が、まず必要としている支援ができていますか?		4	2	2	8
③	本人がまだ慣れていない時期に、訪問や通いでの声掛けや気遣いができていますか?	2	6			8
④	本人を支えるために、家族・介護者の不安を受け止め、関係づくりのための配慮をしていますか?	2	3	2	1	8

できている点 200 字程度で、できていることと、その理由を記入すること
・新しい利用者を受け入れる場合には、介護支援専門員がまとめた基本情報を事前に回覧しているので、最低限の情報や配慮すべき事については理解した上で支援に入れている。
・本人が事業所に慣れるまでは、随時 (不安そうな表情をしている。周りをキョロキョロしている等) 声掛けをするなど不安解消に努めることができた。

できていない点 200 字以内で、できていないことと、その理由を記入すること
・急遽の相談が多く情報の回覧が遅くなることがあり、職員の対応に影響が出てしまう事があった。
・家族との関りについては、働いている家族の方が多く情報交換がスムーズに行えない事が多い。
・本人のニーズを上手に抽出することができなかった。また、現場職員に上手に発信することができなかった。

次回までの具体的な改善計画 (200 字以内)
○アセスメントの段階で本人、家族の気持ちやニーズをより引き出せるように質問内容等を工夫していく。また、基本情報の内容を見直し全職員が本人、家族のニーズを確認できるようにする事で周知を図る。

事業所自己評価・ミーティング様式

実施日 平成 29 年 1 月 11 日 (16 : 00 ~ 17 : 30)

2. 「～したい」の実現 (自己実現の尊重)

メンバー 増淵、福田、下村、手塚、大貫、野崎、辻、神山
湯澤、鈴木

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	前回の課題について取り組めましたか?	人	3人	2人	3人	8人

前回の改善計画
○計画作成者からケアプランや介護計画の説明していく。 ○定例会議で利用者個々の目標やゴールについて周知及び検討をしていく。 ○担当者会議等への参加を積極的に行っていく。
前回の改善計画に対する取組み結果
○職員の勤務体制が不規則なため、定期的に会議を開催するのが難しかった。本人の目標についてもケアプランの説明は行っているが職員それぞれの認識が一致するまでには至っていない。

◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	「本人の目標 (ゴール)」がわかっていますか?		3	2	3	8
②	本人の当面の目標「～したい」がわかっていますか?		5	1	2	8
③	本人の当面の目標「～したい」を目指した日々のかかわりができていますか?	1	4	1	2	8
④	実践した (かかわった) 内容をミーティングで発言し、振り返り、次の対応に活かしていますか?	1	5		2	8

できている点	200 字程度で、できていることと、その理由を記入すること
	・当面の目標については、介護支援専門員と職員が情報を共有することである程度目標を理解した上で支援をする事ができている。

できていない点	200 字以内で、できていないことと、その理由を記入すること
	・サービスのパターン (流れ) が確立してしまい、利用者個々の目標に沿った支援を常に意識した動きは取れていない。また、認知症の利用者も多くニーズの抽出が困難な場合があり、家族、事業所側都合の支援になってしまう事がある。

次回までの具体的な改善計画	(200 字以内)
	○職員個々でケアプランの内容について認識が様々なので、実際の支援と連動性を持たせることができるように会議やミーティング等で本人の目標を詳細にしていく。

事業所自己評価・ミーティング様式

実施日 平成 29 年 1 月 11 日 (16 : 00 ~ 17 : 30)

3. 日常生活の支援

メンバー 増渕、福田、下村、手塚、大貫、野崎、辻、神山
湯澤、鈴木

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	前回の課題について取り組みましたか?	1 人	5 人	1 人	1 人	8 人

前回の改善計画
○受け入れ時及び更新時の基本情報の内容を詳細にしていく。
前回の改善計画に対する取組み結果
○本人の状況に応じて適時情報の更新、共有を行い支援内容に反映させることができた。

◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	本人の自宅での生活環境を理解するために「以前の暮らし方」が 10 個以上把握できていますか?		1	3	4	8
②	本人の状況に合わせた食事や入浴、排せつ等の基礎的な介護ができていますか?	4	4			8
③	ミーティングにおいて、本人の声にならない声をチームで言語化できていますか?	1	2	3	2	8
④	本人の気持ちや体調の変化に気づいたとき、その都度共有していますか?	3	3	1	1	8
⑤	共有された本人の気持ちや体調の変化に即時的に支援できていますか?	3	3	1	1	8

できている点	200 字程度で、できていることと、その理由を記入すること
	・基礎的な介護 (入浴、排せつ、食事) などは概ね行うことができた。 ・利用時のバイタル測定、食事量、排せつチェックなどを基に体調の変化を早期に発見できるように努めることができた。

できていない点	200 字以内で、できていないことと、その理由を記入すること
	・本人の「以前の暮らし方」については、情報があまりなく把握しきれていない。 ・ミーティングは毎日行っているが、現状の報告になりがちで本人の声にならない声に対して深く考えることがあまりできていなかった。

次回までの具体的な改善計画	(200 字以内)
	○「以前の暮らし方」については、初回利用前のアセスメントの段階で聞き取りをしっかりと行い職員と共有していく。 ○ケース記録に本人の些細な様子も記録していくことで情報収集と共有を図る。

事業所自己評価・ミーティング様式

実施日 平成 29 年 1 月 11 日 (16 : 00 ~ 17 : 30)

4. 地域での暮らしの支援

メンバー 増淵、福田、下村、手塚、大貫、野崎、辻、神山
湯澤、鈴木

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	前回の課題について取り組みましたか?	人	5 人	1 人	2 人	8 人

前回の改善計画	○本人や家族等と関わる際に情報を取り入れて共有していく。
前回の改善計画に対する取組み結果	○利用開始前のアセスメントで本人の生活スタイルなどの聞き取りを行ったが、事業所内での支援が主となり自宅でのどのように過ごしているかまでは把握しきれなかった。

◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	本人のこれまでの生活スタイル・人間関係等を理解していますか?		5	1	2	8
②	本人と、家族・介護者や地域との関係が切れないように支援していますか?	2	4		2	8
③	事業所が直接接していない時間に、本人がどのように過ごしているか把握していますか?	1	2	4	1	8
④	本人の今の暮らしに必要な民生委員や地域の資源等を把握していますか?	1	1	2	4	8

できている点	200 字程度で、できていることと、その理由を記入すること
・独居の利用者に対して民生委員と協力して見守りや緊急時の連絡調整などを行うことができた。	

できていない点	200 字以内で、できていないことと、その理由を記入すること
・本人の人間関係や地域との関わりまで把握しきれしていない。 ・地域資源や民生委員については職員それぞれに認識のバラツキがある (特に地元の職員とそうでない職員とでは認識の差が大きい)	

次回までの具体的な改善計画	(200 字以内)
○アセスメントの段階で本人の交友関係や地域との関わりについても情報収集をしていく。 ○民生委員や社会資源の把握については情報を整理し表などでまとめるようにする。	

事業所自己評価・ミーティング様式

実施日 平成 29 年 1 月 11 日 (16 : 00 ~ 17 : 30)

5. 多機能性ある柔軟な支援

メンバー 増淵、福田、下村、手塚、大貫、野崎、辻、神山
湯澤、鈴木

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	前回の課題について取り組みましたか?	人	3人	1人	4人	8人

前回の改善計画	○地域資源の見直し関りの範囲を広げていく。
前回の改善計画に対する取組み結果	○地域が過疎化しており地域資源を見出すのが困難だった。また、本人と地域の関り自体が希薄になっているので、事業所としてどこまで踏み込んだらいいのか判断が難しい。

◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	自分たち事業所だけで支えようとせず、地域の資源を使って支援していますか?		2	1	4	7
②	ニーズに応じて「通い」「訪問」「宿泊」が妥当適切に提供されていますか?	2	3	2	1	8
③	日々のかかわりや記録から本人の「変化」に気づき、ミーティング等で共有することができていますか?	2	3	3		8
④	その日・その時の本人の状態・ニーズに合わせて柔軟な支援ができていますか?	2	5	1		8

できている点	200 字程度で、できていることと、その理由を記入すること
<ul style="list-style-type: none"> 概ねニーズに応じたサービス（通い・訪問・宿泊）を提供することができた。 ミーティングや申し送り帳などを活用して本人の変化に対して職員間で情報を共有することができた。また、医療面は看護師が中心となり情報を発信した。 	

できていない点	200 字以内で、できていないことと、その理由を記入すること
<ul style="list-style-type: none"> 地域資源の把握 サービス提供の内容（利用回数を含む）が家族中心の考えとなってしまう本人のニーズが置き去りになってしまうケースが多い。 	

次回までの具体的な改善計画	(200 字以内)
○日頃から柔軟な対応が取れるように小規模多機能型居宅介護の特徴を全職員で再認識していくとともに定期的に事例検討会などを開催することで柔軟な意識を身に着けられるように努めていく。	

事業所自己評価・ミーティング様式

実施日 平成 29 年 1 月 11 日 (16 : 00 ~ 17 : 30)

6. 連携・協働

メンバー 増淵、福田、下村、手塚、大貫、野崎、辻、神山
湯澤、鈴木

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	前回の課題について取り組みましたか?	3 人	3 人	1 人	1 人	8 人

前回の改善計画	○毎年実施している行事などに地域の方も参加していただけるように働きかけをしていく。
前回の改善計画に対する取組み結果	○地域住民の方に行事への参加を呼びかけることはできなかったが、屋外で行ったバーベキューに近隣の方が飛び入りで参加することがあった。

◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	その他のサービス機関 (医療機関、訪問看護、福祉用具等の他事業所) との会議を行っていますか?	2		2	3	7
②	自治体や地域包括支援センターとの会議に参加していますか?		1	1	5	7
③	地域の各種機関・団体 (自治会、町内会、婦人会、消防団等) の活動やイベントに参加していますか?	1	1	2	4	8
④	登録者以外の高齢者や子ども等の地域住民が事業所を訪れますか?	2	1	3	1	8

できている点	200 字程度で、できていることと、その理由を記入すること
・他のサービス機関とは担当者会議や必要時に連絡を取り合うなど連携を図っている。 ・近隣学校との交流や地域イベント等に参加している。また、地元中学校の文化祭に招待していただくこともあった。 ・地元のお祭りで登録者が制作したはり絵や小物の展示を行った。	

できていない点	200 字以内で、できていないことと、その理由を記入すること
・登録者の家族以外で事業所を訪れる高齢者や子ども等の地域住民は殆どいない。 ・自治会や地域包括支援センターとの会議には参加できていない。	

次回までの具体的な改善計画	(200 字以内)
○自治会や地域の各機関と関わり合いをつくるため、積極的にイベントや会議などに参加させていただき事業所と地域の連携・協働が生まれるように努めていく。	

事業所自己評価・ミーティング様式

実施日 平成 29 年 1 月 11 日 (16 : 00 ~ 17 : 30)

7. 運営

メンバー 増淵、福田、下村、手塚、大貫、野崎、辻、神山
湯澤、鈴木

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	前回の課題について取り組みましたか?	人	人	4 人	3 人	7 人

前回の改善計画	○運営推進会議を通して地域と関わっていける接点を見出していく。
前回の改善計画に対する取組み結果	○本年度の運営推進会議より地域の自治会長にも参加していただけるようになった。現段階では、地域との具体的な関りを見いだせていない。

◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	事業所のあり方について、職員として意見を言うことができているか?	2	1	1	4	8
②	利用者、家族・介護者からの意見や苦情を運営に反映していますか?	2	2	3	1	8
③	地域の方からの意見や苦情を運営に反映していますか?	1	3	1	2	8
④	地域に必要とされる拠点であるために、積極的に地域と協働した取組みを行っていますか?		2	3	3	8

できている点	200 字程度で、できていることと、その理由を記入すること
・ミーティングや日常業務の中で意見交換や情報共有することができた。 ・家族からの意見、苦情が出た場合には改善策を検討し職員間で共有、実行できるように努めることができた。 ・地域住民との関わり合いを深めるため、事業所主催の介護相談会を実施した。参加者は数名程度だったが事業所の存在を地域に伝える切っ掛けづくりとなった。	

できていない点	200 字以内で、できていないことと、その理由を記入すること
・地域の方から意見や苦情を引き出すツールが無いため	

次回までの具体的な改善計画	(200 字以内)
○運営推進会議委員の増加を図る。特に地域の方を中心に警察、消防等にも会議の内容に応じて参加していただけないか依頼をしていく。	

事業所自己評価・ミーティング様式

実施日 平成 29 年 1 月 11 日 (16 : 00 ~ 17 : 30)

8. 質を向上するための取組み

メンバー 増淵、福田、下村、手塚、大貫、野崎、辻、神山
湯澤、鈴木

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	前回の課題について取り組みましたか?	人	人	3人	5人	8人

前回の改善計画	
○内部研修の内容を充実していく。	
前回の改善計画に対する取組み結果	
○変則勤務や短時間勤務の職員が多くまとまった研修時間が取れないため、主に資料の回覧に頼ることが多かった。	

◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	研修 (職場内・職場外) を実施・参加していますか	1	1	1	5	8
②	資格取得やスキルアップのための研修に参加できていますか	1		3	4	8
③	地域連絡会に参加していますか				8	8
④	リスクマネジメントに取り組んでいますか	2	1	1	4	8

できている点	200 字程度で、できていることと、その理由を記入すること
・介護支援専門員が地域連絡会に参加している。 ・新入社員の指導については、ベテランの職員が日常業務の中で直接指導をして理由を促した。 ・危険性が予測される物事に対しては、ヒヤリハット報告書を提出することで事故を未然に防ぐように努めている。	

できていない点	200 字以内で、できていないことと、その理由を記入すること
・内部研修の時間が取れない。	

次回までの具体的な改善計画	(200 字以内)
○内部研修について、現状では大人数の職員が一度に集まるのは難しいので、職員個々の経験年数やスキルによって少人数のグループに分けていく。内容についてもグループによって理解し易いものにする事で実践的なスキルを身に付けられるように配慮していく。	

事業所自己評価・ミーティング様式

実施日 平成 29 年 1 月 11 日 (16 : 00 ~ 17 : 30)

9. 人権・プライバシー

メンバー 増淵、福田、下村、手塚、大貫、野崎、辻、神山
湯澤、鈴木

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	前回の課題について取り組みましたか?	2 人	1 人	1 人	4 人	8 人

前回の改善計画
○成年後見制度の理解を深める研修や個人情報の管理についても再度周知徹底していく。

前回の改善計画に対する取組み結果
○成年後見制度については、ある程度理解を深めることができたが対象者がいない状況。個人情報については職員個人と同意書を取り交わすなどして随時周知を図っている。

◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	身体拘束をしていない	6	2			8
②	虐待は行われていない	8				8
③	プライバシーが守られている	4	4			8
④	必要な方に成年後見制度を活用している	3		1	3	7
⑤	適正な個人情報の管理ができている	4		3	1	8

できている点 200 字程度で、できていることと、その理由を記入すること
・身体拘束、虐待については、職員が常に意識をして業務することができている。認知症で立ち上がり不安定な方はセンサーマットを使用するなどの配慮をしている。
・個人情報の管理については契約の際に同意書をとるなど徹底している。

できていない点 200 字以内で、できていないことと、その理由を記入すること
・成年後見制度の認識が職員個々で把握状況にばらつきがある。
・玄関の自動ドア設定を変えて外に出にくい状況にしている。(利用者の安全確保のため) 利用者が外に出ようとしている場合には職員が付き添い散歩などを行っている。

次回までの具体的な改善計画 (200 字以内)
○身体拘束及び虐待についての内部研修を行うことで職員の意識を向上させていく。また、外部研修については機会があれば参加できるよう配慮する。

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	社会福祉法人優心会	代表者	毛塚 徹	法人・事業所の特徴	当事業所は旧栗野町の保健センター跡地で運営をしております。近隣には郵便局や交番、小学校など公共機関も多く旧栗野町の中では利便性の高い場所に位置しております。また、河川や山など自然環境に恵まれて、ゆったりと穏やかなサービスを提供している事業所です。
事業所名	かのん	管理者	増渕 浩志		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1人	人	1人	人	人	人	人	2人	人	4人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取り組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	全スタッフが集まり事業所自己評価が出来なかったため、計画的に全てのスタッフに関わるようにする。	全スタッフに資料の回覧や口頭での説明を通して理解を促し自己評価を行うことができた。	事業所スタッフを交えた自己評価は前回に比べると改善されているが、外部評価委員の人数が少ないので明確な評価が出てこないのでは。	事業所自己評価に関しては今回の様な形を継続するとともに外部評価員の増加を図り適正な評価が行える体制を整えていく。
B. 事業所のしつらえ・環境	なし	なし	事業所の壁などに行事等の写真や利用者の制作物が掲示してあり施設内環境が整っている。	なし
C. 事業所と地域のかかわり	近隣住民の方を対象とした介護に関わる勉強会や無料相談会などを実施することで事業所の周知を図っていく。	事業所主催で地域の方を対象とした介護相談会を開催することができた。	地域に向けて事業所のアピールを積極的に行っていくことで、更に認知度が上がる取り組みに期待したい。	事業所の活動内容をチラシにして回覧板やポスティング等で周知を図っていく。事業所説明会は次年度も継続していく。
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取り組み	回覧板などを活用して施設の活動内容などを地域に知らせることで多くの方に事業所の存在を知っていただく	回覧板を活用した事業所の周知は図れなかったが、自治会の集まりに参加させていただき施設の特徴やサービス内容の説明を行った。	地域包括支援センターとの協力体制を深めていく必要性もあるのでは。	地域行事への参加や近隣学校との交流は継続しつつ、出来る限り地域の様々な場所に出向く努力をしていく。
E. 運営推進会議を活かした取り組み	運営推進会議の内容を見直し分かりやすく事業所の取り組みを伝えていけるようにする。	運営推進会議の内容を積極的に見直すことができなかった。	運営推進委員の参加人数が少ないので様々な意見が出ていない状況があるのでは。	運営推進会議の増員を図る。会議の開催時間についても参加しやすい時間設定にするなど工夫をしていく。
F. 事業所の防災・災害対策	事業所の防災訓練等に地域の方にも参加して頂けるよう説明、依頼をしていく。	年2回の防災訓練を行うことはできたが、地域住民の皆様に協力を依頼することができなかった。	火災だけではなく水害、土砂災害等についても今後検討していく必要がある。	事業所の立地が水害、土砂災害時どのような被害が想定されるのかを改めて把握した上で適切な避難誘導ができる計画を作成していく。

